Informilo de HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

Heroldo de HEL

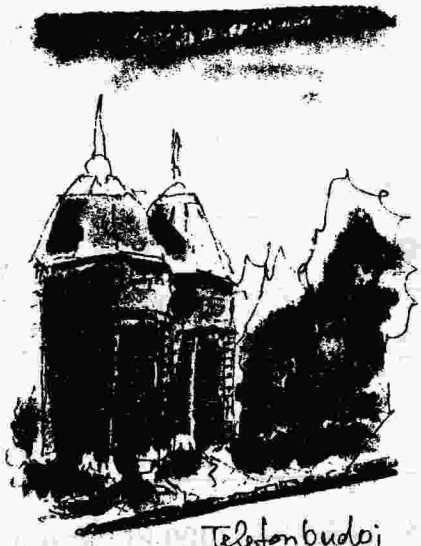
N-ro 93 oktobro-novembro 2002

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO 北海道エスペラント連盟

ĉe HOŜIDA Acuŝi
Mijanomori 2-18-18, TOMAKOMAI
053-0844 JAPANIO

〒053-0844
苫小牧市宮の森2丁目18-18 星田 淳 方

CIVITANA HALO DE NOPPORO



Telefonbudoj
La 66-a IAEL kongreso
2002.10 GOTOO

Memoraĵo de "TER meguhada Tago"
La 66-a IAEL kongreso
2002.10 GOTOO

目　次

3頁　第66回北海道エスペラント大会レポート　後藤 義治
6　2002年総会報告　樺山 裕介
7　第1回委員会報告　樺山
7　第2回委員会報告　樺山
8　学びのページ 入門編 疑問詞
9　ロシア科学船火事　ヴァレリー・パラヴィン
10　エスペラント関係新聞記事
12　第3回アジア大会・韓国訪問の二つの目的　後藤 義治
14　国際会議の英語事情　木村 園子
16　受領郵便物　星田 淳
18　帯広に「エスペラント」誌登場！
19　HELのホームページへようこそ
20　新年講習会のおしらせ

ENHAVO

3 Raporto pri la 66a Hokkajda Kongreso de Esperanto　GOTOO Yosiharu
6 La konferenco de HEL　KABAYAMA Yûsuke
7 La komitataj kunsidoj 1a kaj 2a
8 Elementa kurso : demandaj vortoj
9 Fajro, akvo kaj fornaj tuboj de ŝipo "Morskoj Geofizik"　Varelij PARAVIN
10 En ĵurnaloj
12 La 3a Azia Kongreso de Esperanto; du lokoj vizitendaj por mi en Koreio　GOTOO Y.
14 La angla lingvo en internaciaj konferencoj　KIMURA Sonoko
15 Letero de afgana knabino en Irano
16 Danke ricevitaj
18 En Obihiro aperis paperinformilo nomata "Esperanto"
19 Hejmpaĝo de HEL
20 Anonco pri la Novjara Kurso en 2003

El la redaktejo　編集室から

★ 次号予告　アイヌ民族出身の学者知里真志保はエスペランチストだった
画家チャン・グアン・ドクさんを帯広に迎えてエスペラントで語った（本号17頁に写真）
パラヴィンさんの沿海州民族誌
コルチマリョフさんのハバロフスク美術家列伝
それぞれのザメンホフ祭
新春講習会は楽しかった
5月合宿をする山部はこんなところ
学習のページ、本の紹介、道大会の写真

★ この会誌は20ページです。郵送料が90円です。一枚でも越える重さになると140円に跳ね上がります。集まった情報で古くならない方がいいものから選びました。残るは泣く泣く次回に廻しました。知里真志保の記事はとくに重要な内容で惜しいのですが、次号の爆弾記事とします。おたのしみに。（樺山 裕介）

Zamenhofa festo　**ザメンホフ祭**

12月14日（土）札幌エスペラント会で。かでる2.7で13時から。
12月21日（土）苫小牧エスペラント会で。18時半から文化交流センターで苫E会の総会をした後、場所を変えて。
ザメンホフの誕生日は12月15日です。

第66回北海道大会寄附賛同金（敬称略）阿部映子 3000円、岩井正久3000円、西田光徳3000円、ヴァレリー・パラヴィン3700円、星田淳2000円、日本エスペラント学会35000円、氏名不明500円　ありがとうございました。

☆☆☆

La 66a Hokkajda Kongreso de Esperanto en la urbo Ebecu

第66回北海道エスペラント大会（江別市）レポート

GOTOO Yosiharu 後藤 義治

☆☆☆

今年も北海道大会は例年通り 4 日間。最初の 2 日間は一般から公募した人達の入門講習（参加者なし）。3 日目は市民を含む HEL 会員のためのパネルディスカッション。最終日が総会の三本立てでスタートした。

新会員をねらった一般公募は大学、生協、文化施設などにポスター、チラシを置いたが、一般からの応募者はゼロだった。但し置いたチラシには残部はなく、市民がエスペラントにふれたという効果はあったと確信している。

海外からのお客様は数年友好関係にあるウラジオストックのエスペラントグループ Pacifiko のメンバー、Valerij A. Paravin さん（40 才）。Valerij さんは 17 才の時 Esperanto を始めたが、その時、ソ連では自由に国際交流ができない状況にあった。双子の兄弟が東欧諸国から国際情報を集めているのを見て触発されたそうだ。現在 Valerij さんは英語の通訳を始めて 14～5 年、ドイツ語の通訳は 2 年あまりになる。

大会初日はパネルディスカッション。Valerij さんを囲んで、名古屋在住のアイヌ、エサマンさん、英国留学を終えたばかりの岩間陽子さん。飛んでけ車いすの会の坂本純科さんの 4 人がパネラー。コーディネーター兼通訳は宮沢事務局次長。

岩間さんは 4 年間のロンドンの生活を踏まえ、多民族都市になってしまったロンドンでも、対等な異文化交流はあり得ないという立場。ある移住者の例を取ると一方は「売ってやる」、またいっぽうは「買ってやる」では、どうしても融合点は見当たらない。ここでは英語ができなければ不利益は当然の考え方が支配する。そこに平等はない。

エサマンさんははじめのあいさつをアイヌ語で行ったが、実際には父の時代に、すでにアイヌ語を失っていた。日本国籍の日本人だから不思議もないが、立場によるギャップは当然あって、和人とは違うという一線はひかれている。名古屋は工業都市だからイスラムの国やブラジルなどから来た人が、それぞれのコミュニティを形成している。ほとんどの外国人は日本に出稼ぎではなく、定住を目指している。例えばモスクを中心として集団を作っているイスラム（国はイラン、パキスタン、バングラデシュなど様々で言葉も違う）に対しても日本人の見方とアイヌとしての対処の仕方は違ってくる。日本人とも一定の距離を感じざるを得ない。

坂本さんは、北海道で活躍しているアジア圏をおもに対象とする身障者のサポーターだ。今までにベトナム、フィリピンなど 17 カ国に中古の車椅子 450 台あまりを贈った実績を持つ。送り出す方法はアジアへの観光客に託してだが、今は与えるだけでなく、修理やコミュニケーションを第一に考えるようになった。どこでどの様に使われ、どんな問題があるか。身障者が障害をどう乗り超えられたか、生活がどう変わったかまで把握するよう努力している。エスペラントに関しては、外国から目の不自由な方が来られた時、自分達は北海道で活動しているグループ、東京での宿、行先のキップの手配など困っていたが、東京のエスペランチストたちがあっという間に解決してくれた。組織力と実行力にただただ驚いている。

以上の様な主旨の話があり、核心にはふれずじまいではあったが討論をして午前の部を終えた。

昼食は有機農法と山菜の弁当を食べながらの話に花を咲かせ、図書部出展の本を求める人、SES が用意した第 31 回アジアエスペラント大会のパネルなどを見ながら過ごした。

午後の部は Valerij さんが沿海州に住む少数民族 Udege 族について 2 時間に渡って講演した。通訳は星田委員長が当たった。

ウデゲ族は 900 人（1982 年の統計では 907 人）あまりが生活をしているが、沿海州の人口 220 万人から比べると少数者である。ウデゲの特徴としては他のものを侵さないこと、他の多くの少数民族と共通点が多いこと。現在、四地区に分散して住んでいるが、言語的にはオロチ語に近く、ナナイ語にも類似している。語彙にはモンゴル系も入っており、アイヌ語への影響もあるとされ、さらにニブヒ語にも似た所がある。極東の少数民族は「人類の宝」となるものを持っている。ウデゲとは「魚の皮を着ている人」という意で中国人は「魚衣連」（yu yi lian）と呼んでいる。ウデゲもアイヌ同様いくつかの方言があり、ニブヒ、モンゴル、マンチュリー、中国人達とも交流があり、アイヌについても知っていた。文字はなかったが今はロシア人が作った（最初はローマ字、現在はロシア文字）文字を使っており、現在ではウデゲ⇔ロシア語辞典が発行されている。

狩猟・漁猟民族であるウデゲは 1930 年代まで移動生活を送っていた。信仰の対象はアイヌと同様、山、木、熊、キツネなどすべての動植物だが、ヨーロッパ的に言えば無神者とされた。だがソ連政府はウデゲをコルホーズや生産拠点に送り込み、本来の猟師が農民にさせられた。

共産党政権が確立するとロシア語教育がなされ、文盲は一掃され、大学への進学者も出てきた。1927 年民族教育が始まったが 2 年で終わってしまった。それはウデゲ以外の人で教師となる人はいなく、

ウデゲも高等教育を受けた者は出ていってしまい、教師不足が終末を招いた。とはいえ 60 年代に入ってウデゲ族の教育成果は着々と進み、上級学校へ進む者が65%を越えた。最近では著名な作家、画家、彫刻家などが出てきている。だがウデゲ語を話す者も高齢者のみとなった。地域には主要な地位にある者もおおいが、政府の民族政策によるオサガリ的なポジションがめだつ。

この講演は非常にアカデミックであり、中身の濃いものであった。ぜひ詳しく知りたいならば、HEL 事務局へ、コピー代 100 円と切手を貼った返信封筒同封の上、申し込んで下さい。

お楽しみパンケードは高砂町の Kafejo「ども」で持ち込みの酒と自然食料理に舌鼓を打ちながらの 2 時間、ロシアの内情や、講演のこと、アジア大会の印象など話はつきなかった。

↑ ナナイはアムール川流域に住む少数民族で、ウデゲ人の暮らす地域と隣り合って住んでいます。
（提供：V. パラヴィン氏）

Nanaj-aj fraŭlinoj dancas

沿海州北方先住民族協会会長ナジェージダ・セリュクさんの伝言

Ni salutas loĝantojn de Japanio. Ni esprimas deziron pri plia interkomunikado, pri renkontiĝoj kun reprezentantoj de malmultenombraj popoloj, ekkoni kulturon de ambaŭaj popoloj, ilia historio. Ni devas scii pli pri unu la alia por ke ni restu vivaj. Nadeĵda Selĵuk

2002年総会報告

2002年10月13日　江別市野幌公民館

実参加16人　　委任状4通

例年のような議案書による報告・方針を討議して改正したうえで議決という形をとらずに、今回は連盟の活動をおおう全ての事項について口頭で報告、提案、討議、承認の必要な事項については多数決で議決という方法で進めた。

承認された議決事項は次の通りである。

1.　2002年度決算を下表の通りにする。

2.　2003年度予算を下表の通りにする。ただし、亡くなった中里和夫氏のご遺族から寄付された20万円は別途会計とし、有効に使用する。

北海道エスペラント連盟　2002年度決算書

2002年8月31日現在

支出	予算	決算	収入	予算	決算
一般支出	292,000	397,067	一般収入	262,000	397,067
事務局費	100,000	80,496	会費収入	171,500	152,000
事務関係費	45,000	27,629	前受収入	37,000	16,000
図書印刷費	5,000	4,630	当期収入	134,500	136,000
旅費交通費	10,000	10,773	正会員	120,000	114,000
備品購入	30,000	37,454	購読会員	12,000	20,000
雑　費	10,000	0	青年会員	1,500	0
機関誌費	114,000	58,135	家族会員	1,000	2,000
用紙印刷費	41,000	22,035	寄付金	24,000	245,020
連絡発送費	73,000	36,100	受入利息	1,000	47
組織宣伝費	20,000	25,960	雑収入	373	0
振替手数料	4,000	2,220	繰越金	65,127	0
予備費	30,000	0			
国際交流費	24,000	24,680			
不明金		50,516			
不明金		3,000			
繰越金		152,060			
事業支出	432,590	366,366	事業収入	462,500	366,366
第65会全道大会	232,590	153,726	第66会全道大会	232,500	177,016
会場費	17,400	17,400	参加費	112,500	100,500
設営費	3,000	1,500	連盟員参加	90,000	90,000
講師費	73,000	93,826	不在参加	22,500	10,500
事務費	30,000	4,000	寄付・賛同金	50,000	25,000
パンケード	70,000	38,000	パンケード	70,000	30,500
図書印刷費	20,000	0	その他の収入	0	1,000
予備費	19,190	1,000	バザー	0	20,015
新年講習会	50,000	28,200	新年講習会	50,000	29,000
5月合宿	110,000	76,450	5月合宿	110,000	90,350
図書購入資金	40,000	40,000	図書購入資金	70,000	70,000
繰越金	0	67,990			
合　計	724,590	763,433	合　計	724,500	763,433

2003年度予算

一般支出	238,000	一般収入	196,900
事務局費	90,000	会費収入	171,500
事務関係費	45,000	前受収入	37,000
図書印刷費	5,000	当期収入	134,500
旅費交通費	30,000	正会員	120,000
雑費	10,000	購読会員	12,000
機関誌費	114,000	家族会員	1,000
用紙印刷費	41,000	青年会員	1,500
連絡発送費	73,000	寄付金	24,000
組織宣伝費	20,000	受取利息	1,000
振替手数料	4,000	雑収入	427
予備費	10,000		
事業支出	431,400	事業収入	472,500
第65回道大会	232,500	第65回道大会	232,500
会場費	201,400	参加費	112,500
設営費	3,000	連盟員参加	90,000
講師費	66,000	不在参加	22,500
事務費	30,000	賛同金・寄付	50,000
パンケード	50,000	パンケード	70,000
図書印刷費	20,000		
予備費	15,000		
新年講習会	50,000	新年講習会	50,000
春期合宿	110,000	春期合宿	120,000
図書購入資金	70,000	図書販売	70,000
合計	669,400	合計	669,400

3.　新役員を以下の会員とする。

委員長：星田淳　副委員長：阿部映子、セルゲイ・アニケーエフ　事務局長：宮沢直人

会計：佐藤英治　委員：天方良彦、岩井正久、大山口誠、樺山裕介、後藤義治、佐藤不二雄、須藤昭三、松野元、横山裕之　　会計監査：馬場恵美子、渡辺晋道

4.　2003年度方針は2002年度の方針のまま継続する。

5.　日本エスペラント100周年記念事業の要請に対しては、協力していく方向で検討する。

以上、報告する。　　総会書記　樺山裕介

★ 大会参加は36名でした（不在参加11名を含む）

第１回委員会報告

１０月１３日（日）江別市　野幌公民館

出席者：星田淳、佐藤英治、宮沢直人、後藤義治、佐藤不二雄、樺山裕介、松野元

担当を下のように分けた。新たに財政部を発足させた。

＊Estraro de Hokkajda Esperanto-Ligo dum okt./2002～kongreso/2003

Prezidanto, Estro de Organiza Fako, kaj Vicestro de Organa Fako	HOŜIDA Acuŝi
Vicprezidanto kaj Estro de Stud-Eduka Fako	Sergej ANIKEJEV
Vicprezidanto kaj Distrikta Respondeculo por Kusiro	ABE Eiko
Estro de Kasista Fako kaj Vicsekretario	SATO Eiĵi
Ĉefsekretario kaj Estro de Libroservo	MIYAZAWA Naoto
Komitatano kaj Distrikta Respondeculo por Sapporo	GOTO Yosiharu
Komitatano, Vicestro de Organiza Fako, kaj Distrikta Respondeculo por Otaru	SATO Huzio
Komitatano, Estro de Organa Fako kaj Vicestro de Stud-Eduka Fako	KABAYAMA Yusuke
Komitatano kaj Estro de Informa Fako	JOKOJAMA Hirojuki
Komitatano kaj Distrikta Respondeculo por Muroran	SUDO Syôzô
Komitatano kaj Distrikta Respondeculo por Hakodate	IWAI Masahisa
Komitatano kaj Distrikta Respondeculo por Tomakomai	OYAMAGUTI Makoto
Komitatano kaj Vicestro de Kasista Fako	MACUNO Hajime
Komitatano kaj Vicestro de Informa Fako kaj Distrikta Respondeculo por Asahikawa	AMAGATA Yosihiko
Kontrevizoro	BABA Emiko
Kontrevizoro	WATANABE Sindô

第２回委員会報告

11 月 30 日(土)　札幌市北区麻生 ロンデタージョ

出席者：星田淳、宮沢直人、佐藤英治、樺山裕介、佐藤不二雄、後藤義治、馬場恵美子

江別国際交流センターの行事に参加してブースでエスと道大会の宣伝をした。そのために江別エスペラント会準備会がその団体に１万円の入会金を払って入会しなければならなかった。その経費を連盟から出すことを認めた。中里基金で作る旗は、世界標準による旗と「鮭と浜茄子と緑の星」をあしらった絵の旗の２つに。ロシア沿海州へ行くさいに「飛んでけ車いす」に協力して車椅子を三者で現地へ運ぼうと、「飛んでけ」の坂本さんとパラヴィンさん、宮沢の間で話があった。図書部から発注を年３回から２、１回に減らしたいと希望。2007 年に世界大会を日本に招致する動きがあることを知った財団法人札幌国際プラザ・コンベンションビューローの北川英彦部長、木間哲誘致課長、荻麻里子誘致課主任が来て、札幌に世界大会が来る事態になった場合の支援内容の説明があった。次回委員会は新年講習会が終わる直後の１月 13 日 13:00 から。

学びのページ　入門級　疑問詞

HEL メールマガジン「エスペラント」より
（天方　良彦・横山　裕之作成）

A：Kiu vi estas?　あなたは誰ですか？

B：Mi estas Karlo.　私はカルロです。

A：Kio vi estas？　あなたは何ですか？→あなたの職業は？

B：Mi estas instruisto.　私は教員です。

上記のAさんの質問の最初の単語に注目！Kio は「何？」、Kiu は「誰？」の疑問詞です。

A：Kiu vi estas？　あなたは誰ですか？

B：Mi estas 名前.　　私は●●です。

●●のところに、自分の名前を入れて練習しましょう。

A：Kio vi estas　？　　あなたの職業は？

B：Mi estas ◎◎.　　私は◎◎です。

◎◎のところに入る職業を紹介します。

（左は男性、右は女性です）

instruisto	instruistino	教員
oficisto	oficistino	事務員
laboristo	laboristino	労働者
kuracisto	kuracistino	医者
inĝeniero	inĝenierino	技師
pensiulo	pensiulino	年金生活者

＊**kiu** は、「誰」に使うと言いましたが、

Kiu mangaĵo plaĉas al vi?

どの食べ物が気に入りましたか？

というように、「どの～？、どちら～？」という風にも用います。

＊**kia** は、「どんな～？」というように性質を尋ねる時に用います。

Kia lingvo taŭgas por internacia komunikado?

国際通信には、どんな言語が適しているだろうか？

＊**kies** は、「だれの～？」というように所有を尋ねる時に用います。

Kies opinio pravas?

誰の意見が正しいですか？

＊**kie** は、「どこに？どこで？」というように場所を尋ねる時に用います。

Kie vi naskiĝis?　どこで生まれましたか？

＊**kiam** は、「いつ？」というように時を尋ねる時に用います。

Kiam vi eklernis Esperanton？

いつエスペラントを学び始めましたか？

＊**kial** は、「なぜ？」というように理由を尋ねる時に用います。

Kial vi lernas Esperanton?

なぜエスペラントを学ぶのですか？

＊**kiom** は、「どのくらい？」というように数量を尋ねる時に用います。

Kiom longe vi atendas lin?

どれくらい彼を待ってますか？

kiom は、しばしば数量を示す前置詞 da「～の量の、～の数の」と一緒に用います。

Kiom da tempo vi bezonas por la traduko?

翻訳にはどのくらいの時間が必要ですか？

Skiza traduko de la artikolo farde Valerij Paravin.

Ĵurnalo Vladivostok, la 9an de novembro, 2001

Fajro, akvo kaj fornaj tuboj de ŝipo "Morskoj geofizik" (ĝi apartenas al la Ruslanda Akademio de Sciencoj, Fororienta Branĉo)

En Japana ŝiphaveno Otaru incendiis la 'antikva' ŝipo de sciencistoj de Vladivostoko kaj samtempe finbrulis 46 aŭtoj kaj pli ol 1000 bendoj.

La incendio ekkomencis la 7an de novembro

La 6an de novembro la ŝipo "Morskoj geofizik" forlasis Japanion kaj prenis kurson al Slavjanka. La fajro ekflamis en iu de la laboratorioj (en kiu loĝis la pasaĝeroj), kiam la ŝipo estis je la distanco de 15 majloj de l'bordo.

La Scienca Akademio ne asekuris la ŝipon. Ĝi estis prenita far de turisma kompanio Atlanta Travel por komerca marvojaĝo. Laŭ ĵurnalo Hokkaido Shimbun, la ŝipo surhavis 46 aŭtojn kaj pli ol 1000 bendojn. Laŭ la informo de la Fororienta Centro de serĉo kaj savado, la ŝipo forlasis Otaru-havenon la 7an nokte, je la 3a horo (Vladivostoka tempozono) la ŝipistoj sciigis la Koordiniga Savadcentron pri la fajro. La ŝipistoj penis memstare forigi la incendion sed senrezulte kaj ili vokis per radio la Hokkaidan maran fajrobrigadon. Je la 6a horo la Japana patrola ŝipo prenis la pasaĝerojn (restigante kelkajn oficirojn kaj albordigan grupeton. Nur heltage oni trenveturigis la brulantan ŝipon al la kajo al Otaru reen, kie lokaj fajrobrigado helpis estingi la incendion. Kaŭze de la incendio plene estas finbruligita la superkonstruaĵo, navigista ponteto kaj parto de kajutoj. La maŝina ĉambro ne estis damaĝita kio esperigas pri la ebla plua funkciado de la ŝipo.

Laŭ ĵurnalo Hokkaido Shimbun, ĉiuj ekipaĝanoj kaj pasaĝeroj estis evakuitaj helpe de Japana Administracio de Surmara Sekureco. La incendio estis forigita ĝuste ĝis la 12a horo.
Verŝajne tiu estas la lasta marvojaĝo de la ŝipo, ĉar ĝi estis konstruita en la 70aj jaroj.

小樽沖でロシアの科学船が火事を起こし、焼けてしまったという新聞記事の要約です。
昨年、宮沢と樺山がウラジオへ行くのに乗せてもらおうと交渉していた船でした。
incendio = fajrego

エスペラント関係新聞記事（2002年9 月分）

目次

1. 投稿「大学院大学の英語講義に異議あり」備瀬優氏（沖縄タイムス）
2. 日曜随想「Eのような地球語の登場を期待」（山形新聞）
3. 論説「Esperanto has no heartbeat」Mitch Goodman 氏（Japan Times）（5 月26日掲載）
4. 帯広市の国際交流員が情報誌「エスペラント」を創刊（北海道新聞、地方版）
5. 同上（北海道新聞、全道版）
6. 中国四国E 大会の告知記事（山陽新聞）
7. 芦屋E 会の入門講座の告知記事（神戸新聞）
8. 高岡市のアパート「エスペラント」で不審火（北国新聞）

■1. 沖縄タイムス　　2002年9 月9 日　沖縄タイムス　朝刊　オピニオン

投稿　　備瀬優/ 大学院大学の英語講義疑問

自然科学系の沖縄新大学院大学構想が次第に具体化されている。そのなかの、すべての講義を英語で行うという方針に、私はどうしても首をかしげざるを得ない。

講義で使用される言語を英語に限定することは、重大な言語的差別につながる、と私は考える。詳しく述べれば次のようになる。英語を母語とする者、つまり幼少から英語に接し自然に英語を習得した者は、言語的に比較的努力をすることなくこの大学の講義を受けることができる。しかし英語以外の言語を母語としている者はどうだろうか。

このような人々は、膨大な時間と労力と金を費やして英語を学習し、なおかつ習得・熟達できた上で、はじめて講義を受けることができる。何かの理由で英語が習得できない人（例えば耳の聞こえない人が外国語として口語英語・読唇英語を習得するのはかなり困難だと思う）は、講義を受けられる可能性すら持てない。英語母語話者に比べ非英語母語話者が、この場合外国語学習に費やす時間と金銭に関して、および英語の講義を受けることに関して、明らかに不利益を被るわけである。このことは、学生の半数を日本人、もう半数を外国人にするという大学院大学の構想において考えると、大きな問題であると私は思う。

ところでこのような言語的差別は、次のように正当化されることが多い。すなわち「英語はあらゆる分野で使われる事実上の世界言語である。この言語を習得することは大変かもしれないが、世界中の異言語話者と意思疎通するために必要なことである」と。しかし、英語は歴史的に考えて、植民地主義に基づく侵略と支配のために広まった言語である。これを国際公用語として安易に認めることは、植民地支配の歴史的犯罪を許すことにはならないだろうか。

また異言語話者間の情報伝達を考えるなら、前述したような英語母語話者のみに特権を与えるような不平等を避けるために、より中立的な言語を国際語とするような模索が必要だと思う。それは例えばどんな母語を持つ人からも外国語としての学習をせまるエスペラントのような人工言語の使用だ。

あるいは英語を国際語とすることに妥協したとしても、「英語母語話者の英語」とは別に、英語圏内で日々生まれ続けるイディオム的言い回しを制限するなどした新たな「国際公用のための英語」を開発することである。

さて、大学院大学において、英語のみを使って講義をする理由は何だろうか。私の知る限りこれは明確にされていない。おそらく、自然科学においては英語が不可欠とか、たくさんの国から人が集まるから英語は都合がいい、といった考えが暗黙の了解になっているのだろう。しかし私には、そのような主張がはじめに述べたような言語的差別に優先するとは全く思えない。また最適な解がすぐに見つかるような問題でもないと思う。議論が尽くされるべきだ。（浦添市宮城三ノ一四ノ七、大学一年

■2.　日曜随想　日々の「ことば」　岩井哲　　2002.09.01　山形新聞　朝刊

私たちがふだん使っている「ことば」は、言わずと知れたなまりのあるズウズウ弁だ。それを私たちは、なぜか恥ずかしいもののように感じてしまっている。自分もそうだが、胸を張ってズウズウ弁をしゃべれないのである。標準語と呼ばれる実体の不確かな幻想に心のどこかでおびえているのであろう。かといって、澄まし顔で標準語を使っているつもりでも、すぐにお里が知れるようなヘマをやらかしてしまうのも私たちなのである。

（中略）

現在と異なり、共同体の規模も小さく、ましてや交通や情報通信の未発達なありようを思い描けば、閉じられた空間（地域）ごとに「ことば」の熟成過程があったと考えるのがむしろ自然なのである。

ならば「なまってなにが悪いか！」と言いたいところだが、やはりそうもいかない。いま方言は危機的な状況を迎えているのである。共同体の概念が、地域から県、国、アジア、環太平洋、さらに世界というふうにその空間化度を高め（とりわけヨーロッパでは民族主義の台頭という反動をはらみながらもだが）、一方、高速交通網の発展、情報通信システムも井戸端会議から新聞やラジオへ、そしてテレビから双方向テレビ、インターネットへとそのありようを急激に変化させていることと相まって、地域ごとにあった日々の「ことば」もその空間的特質を抹殺されながら均質化の一途をたどっているからである。後戻りはあり得ない。これはもはや善しあしの問題ではなく、歴史の無意識のようなものであり、そのうちエスペラント語に代わる新たな地球共通語も本格的に登場することになるのかもしれないなどとイメージさせられる今日このごろなのである。

（上山市、「言の葉倶楽部」主宰）

■3.　May 26, 2002　The Japan Times:　　READERS IN COUNCIL

■4.　国際交流の輪　情報で広げて＊「エスペラント」あす創刊＊帯広

2002/09/17　北海道新聞　地方　夕刊

外国文化の紹介など国際交流事業を企画・運営する帯広市の国際交流員が十八日、日本語でまとめた国際交流情報誌「エスペラント」を創刊する。国際交流員の母国の話題や交流行事の情報などを盛り込み、十勝に住む人々の国境を超えたふれあいの広がりを目指す。

帯広市には現在、タイ、ブラジル、中国、米国出身の四人の国際交流員がいる。四人はこれまで、十勝在住の外国人向け情報誌を作製してきたが、「今度は十勝の日本人に外国のことを知ってもらい、交流のきっかけになれば」と「エスペラント」発刊を企画。タイ出身のスパワディ・ボリストワニトチョンさん（２４）を中心に準備してきた。

情報誌の名前には、国の違いを超えた幅広い交流を目指す四人の思いから、世界共通の国際語「エスペラント」を採用した。Ａ４判八ページ、年四回発行する。

（中略）。

問い合わせは森の交流館・十勝（電）０１５５・３４・０１２２へ。

（後略）

■5.＜きのう今日あす　地方版から＞ 2002/09/18 北海道新聞　全道　夕刊

＊国際交流へ情報誌創刊＊帯広

外国文化の紹介など国際交流事業を企画・運営する帯広市の国際交流員が１８日、日本語の国際交流情報誌「エスペラント」を創刊した。十勝に住む人々の国境を超えた交流を目指す。Ａ４判８ページ、年４回発行。

・・・（終わり）

韓国訪問の二つの目的

――― 臨津江（イムジン川）と済州島（済州道） ―――

後藤義治（札幌）

今回のアジア大会では、アジアの仲間たちとの交流の他、二つの目的があった。

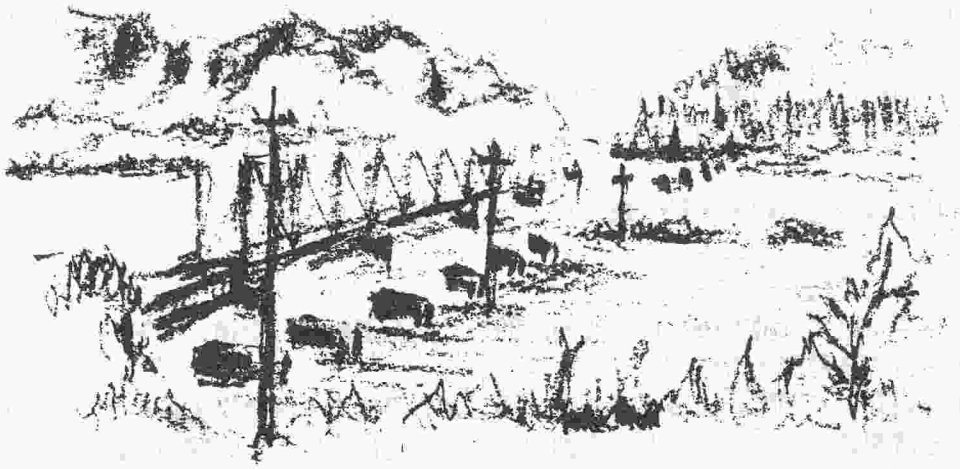
そのひとつは朝鮮半島が分断され、亡命を試みた幾多の人々が命を失った臨津江（イムジン川）をじっくり見てその姿を写しを取ることだった。幸いにも今大会のLKKが半日遠足として計画してくれた。

もうひとつは一度行こうと思いながら今まで行く事が出来なかった済州道の観光、これもTEKが用意してくれた。

臨津江はそう大きな川ではない。流域面積を比べても利根川の半分に満たない。この川は中・下流では稲作を中心とする農村地帯を形成、京畿湾に注いでいて豊饒の海を作っている。

だが不幸な事に古代から要衝の地として緊張の絶える事がなかった。三国時代では三国が接する所、高麗時代では主都開城を囲む水城となった。朝鮮戦争中はこの地で両軍が激突したまま膠着状態になり、終戦後は休戦ラインとして今も緊張が続いている。

遠足当日は曇り、見通しはあまりよくなった。河畔の臨津閣駅には美しくデザインされた電車が通じており、白い車体はまわりの緑に映えてまぶしい。
川には旧京義線の基部だけが残り、すぐ隣に新しい橋が川の中程までのびている。そのステンレス製の橋梁がめずらしかった。現地は見学者であふれ韓国側の意識の高さがうかがえる。



臨津江　新京義線

いっぽう済州道（北海道と同じ、済州島とは言わない）はソウルから飛行機で約1時間。空港からホテルまで約40分あまり。ソウルも暑かったが、一層蒸し暑い。ガイドさんの受け売りだが、自然第一で工業化はいっさい許されないとのこと。済州道は三多島ともいわれるが、滞在中、風は全くなく、女性もそれ程多いとは思われなかったが、石だけは目に入らない所はなかった。だが帰国するやいなや特大の台風が襲来した所をみると単に運が良かっただけかもしれない。もうひとつは三無島とも呼ばれ泥棒、乞食、門がないそうだ。ただフィンランドにさえ乞食がいるのだから、本当の所はどうでしょう。この二つの言葉は韓国の国語辞典にも載っているのだから単なるウワサではない。

特筆すべきは水道水。島には貯水池もダムもない。全部地下深くからの湧泉である。ちなみに韓国で売られているミネラルウォーターはすべて済州道の水。また雨が降っても水溜はできない、地面は全面が軽石だからである。したがって河川はなく、田んぼもない。

耕地はミカンやイモ類が栽培され、高台の草地には牛・馬・山羊などが放牧されている。海岸線は岩場でところどころ整地して海水浴場にしている。

島の中央北端部に三姓穴という史蹟がある。地中から三柱の神がわきでて、日本から漂着した3人の姫を娶って耽羅国を建国したという。三神の名はそれぞれ高、夫、良（梁）といったが、今でも島ではこの姓が多いという。

この史蹟を守っているのがトルハルバン（済州道方言で石叔父さん）といい、いまでは島のいたる所に立っている。日本での道祖神か地蔵さまといった所。なかなかとぼけた顔立ちでなんともいえない趣きがある。

済州道には独特の方言があり、本土の人でさえ聞き取るのが難しいそうです。私は済州島で5年間暮らしたという、焼肉屋もアジュモニから教わった方言をポケットにしのばせていったが使う機会がないまま帰国してしまった。

東京エスペラントクラブ La Suno Pacifika n-ro 190 (2002.10) から転載しました。

La angla lingvo en internaciaj konferencoj

国際会議の英語事情

KIMURA Sonoko　木村園子

今年の春、初めて国際会議に出席しました。有機農産物の認定基準に関するもので、世界最大の有機農産物展示会（ドイツ：ニュルンベルグ）に接続して開催されました。わたしは通訳として展示会に雇われていたこともあり、基準作りの現場を見てやれ、と会議にも潜り込んだのです。

この会議は有機農産物の基準を全世界で統一しようとするものでした。これはどこが（？！）環境に優しいんだというエセ有機農産物の排除という重要な課題がある反面、有機農産物の取引のグローバリゼーションに直結しているという、生産地のなるべく近くでの消費をめざす有機農業の精神に反する面もあるので、とても入り組んだ複雑な問題です。そのためか、表題として歌われている「調和：Harmonization」とは裏腹に、なんとも不調和な事情が垣間見られました。

まず、問題の背景ですが、欧米の基準は、まあ、ヨーロッパとアメリカで隔たりがあるにせよ、かなり統一されています。東欧の問題はあるのですが、それは西欧の一方的な指導があるので何も調和する必要はありません。本当に問題なのは、いわゆる「開発途上国」においてどういうものを有機農業とするかです。ちなみにここで言う「開発途上国」には日本も入っています。元々のアジアやアフリカ、南アメリカの農業形態は欧米と異なるので、欧米の基準で評価するのはなかなか難しいのです。特にアジアの小面積で行われる農法にヨーロッパの輪作概念の基づく基準を当てはめるのには無理があります。しかし、あそこでできて、なんでこっちではできないんだ、という不満は多く、特に同じ市場に出た場合、どう扱うかが近年大きな問題になっているのです。

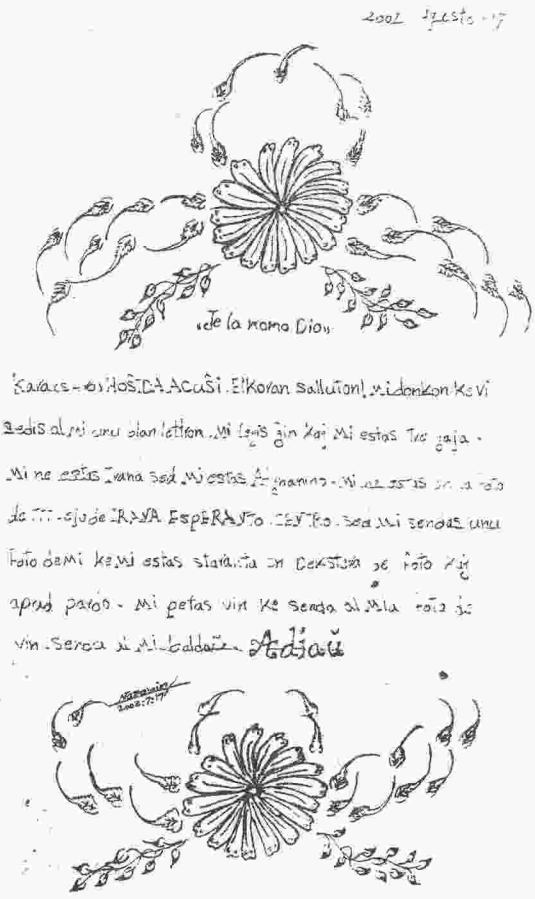
問題点が主に「開発途上国」であったにもかかわらず、参加している人々は、ドイツで開催されたこともあり、ほとんどが欧米人でした。ちなみに日本人は私を入れて 3 人でした。発言の主導も当然のことながら欧米人でした。そして、そこで話されている言葉は（当然のことながら…）英語でした。少し背伸びをしすぎたかなと、戸惑いながら聞いていましたが、雰囲気に馴染んでくると面白いことに気付きました。なんとなく分かる～頷いている人々とともに頷ける発言と、何言ってんだかさっぱり分からない～のに（皆？）無理して笑っている一発言があるのです。前者は英語を外国語としている人、後者は英語を母語としている

人（主にアメリカ人）でした。英語を外国語とする人、特に、自分自身それに慣れていない人はとても丁寧に発音し、説明してくれます。そして、言いたいことが（私でも）良く分かります。しかし、そうでない人は（アメリカ人でなくても、英語ができまっせ、という人は）英語できるのが当然と言わんばかりにまくし立てるのです。そこにジョークを挟むため、笑わない人は分かっていない人と烙印を押されてしまうので、みなその踏み絵を踏んで笑いが起こります。（そのように笑っていたのは私だけかと思ったら横にいる人が何が面白いのかと聞いてきたので、さあ、と言って安心して笑うのをやめました。）そんな状態ですから、議題にもついていけず、頑張って発言しても何がなんだか分からないうちに一蹴されてしまいます。そもそも「開発途上国」から来ている人が少ないうえに、そのように言葉の壁を作られてしまっては公正な基準作りなんてありえません。

この会議はFAOと各国政府機関、NGOの共催による有機農業という理想を追っているものでした。そこで、こんな状況です。参加は経済的な問題も絡んできて厄介ですが、少なくとももっと言葉の思いやりを持って欲しいとつくづく思いました。相手のことを考えて、相手の立場を尊重して話す。それがコミュニケーションの基本ではないのでしょうか。公正な環境基準をつくろうとする人たちに、公正な言語環境をつくるという意識がないのは残念なことだと思います。わたしももしエスペラントに接する機会がなかったらこのような認識も持たなかったかも知れません。言語環境に対する認識（常識！）作りは今後ますます重要になってくる課題です。

Letero de afgana knabino en Irano
アフガン難民の少女からの手紙

De f-ino Nazanin Keyrkhah (16-jara) al Hoŝida. Knaninema bildo de floro tuŝas la koro. Fartu bone la knabinoj !



＊Mejlŝtono 2002/7　N-ro 172, 仙台Ｅ会：B5X8頁の内Ｅsp文半頁。天文学者S-ro　平山の「金星の話」は日-E対訳。瑞巌寺住職平野宗浄氏（元会員）の訃報あり。

＊Oomoto; n-ro 448, 2002 jan-jun, Oficiala organo de Oomoto kaj Ĵinrui Aizen-kaj(UHA), B5 X32頁＋表紙（カラー）：Oomoto en Brazilo は1924年以来の歴史。Ajzenka は混声４部にきちんと編曲された２曲を載せている。全文E.

＊PONTETO:Julio 2002　N-ro 194: 関東エスペラント連盟(ELK):B5X 12頁のうち８頁のＥ．文は第５１回関東大会での写真とS-ro HO song(Koreio)の Prelego "Lerneja Edukado kaj Seksa Diskriminacio en Koreio".

＊Novajoj Tamtamas: N-ro 183,　Julio 2002, Jokohama Esperanto-Rondo(JER). A4X4頁、全文Ｅ．NASK（かってのサンフランシスコ講座、今年はバーモント州で）の報告、北海道にも来た S-ino Dianne Lukes の来訪記など

＊La Tamtamo: 第 337号(2002 年 7月, JER),A4 X 4 頁、日本語。お知らせ掲示板に提案、計画参加呼びかけが目白押し。「世界連邦運動との提携」について三好鋭郎（えつお）さんの記事連載開始。

＊SFERILO:変形Ａ４版１枚２頁。 SFERO (San Francisco Esperanto Regional Organization) 発行、９月例会予告号。英語・エスペラント混在。７月のＥＬＮＡ大会報告など。

＊センター通信：2002年 9月 2日 、N-ro 233、B5X12頁のうちＥ文１頁は名古屋方言のエスペラント解説。

＊Mejlŝtono 2002/9　N-ro 173, 仙台Ｅ会：B5X8頁、日本語。Fortaleza UK報告、チェコ洪水被害への寄付呼びかけなど。

＊La Movado N-ro 619 sep. 2002, B5 X 16頁の内Ｅ文は計４頁。特集「グローバル化とエスペラント」が３頁分。

＊NOVA VOJO: 2002. 9: N-ro377 sept. A5 X32頁中Ｅ文約９頁．大本エスペラント普及会(EPA) 発行

＊Novajoj Tamtamas:N-ro184,septembro 2002, JER:A4X4頁、全文Ｅ．第３回アジア大会（ソウル）後の韓国内旅行記。

＊PONTETO: Januaro 2002 N-ro 195:ELK :B5X12頁のうちＥ文約７頁、内６頁は「関東大会での弁論から」

＊La Tamtamo: 第 338号(2002 年 9月, JER),A4 X 4 頁、日本語。三好鋭郎さんの世界連邦大会の記事から「 ― 会議は英語を母国語にしている人間が仕切っていて、我々にはよくわからない、とこぼすノルウェーからの年輩者 ― 」

＊SFERILO:変形Ａ４版１枚２頁。 SFERO 発行、英語・エスペラント混在、10月例会予告号。Senkrokodiliga Semajfinoの計画；Jam temp' está, ĉu ne, と呼掛け

＊Eskalo　第97号(2002 年第４号)、2002年 9月25日、川崎エスペラント会、B5X8頁中エスペラント文１頁。KS（日中韓青年合同合宿）、アジア大会参加記など。

＊LA Suno 78, 2002年 9月30日発行、山梨エスペラント会、B5 X18頁約３頁。エスペラント関係の切手．葉書・シールがカラーで４頁。Pri Eikju(瑛九）は、池田満寿夫等を育てた宮崎のエスペランチスト芸術家（本名杉田秀夫）を解説。薬学関係エスペラント文献の紹介あり。

＊La Vulkano: N-ro 142, Aŭtuno 2002 : LA ORGANO DE HUKUOKA ESPERANTO-SOCIETO:B5 X 8頁中E.文１頁。アジア大会、世界大会などの参加記。カラー写真

6枚。
＊La Movado N-ro 620 okt. 2002, B5 X 16頁の内E文は計3頁。Mikspotoに「コソボーエスペランチストの通信から（星田）」を載せている「札幌民衆史シリーズ9」を紹介。
＊VOJO SENLIMA;N-ro 154,Oktobro 2002 熊本エスペラント会. B5 X12頁、日本語
＊NOVA VOJO:2002.10:N-ro378 oktobro, A5 X32頁中E文約8頁, EPA.
＊SFERILO:変形A4版1枚2頁。 SFERO発行、英語・エスペラント混在、11月例会予告号。
＊Hokkaidô Rômazi Kenkyû No.114 （復刊87）北海道ローマ字研究会 Hs.14n.11 gt.01n.,この運動の先覚者田中館愛橘（TANAKADATE-AIKITU ）博士の記念切手を張った封筒で到着。
＊Mejlstono 2002/11 N-ro 174, 仙台E会：B5X6頁のうち入門講習の記事は日ーE.2言語。
＊La Movado N-ro 621 nov. 2002, B5 X 16頁の内E文は 2.5頁。「福岡にドイツの数学者」この人の歓迎会は札幌でもあったはずだが記事なし。92才の栗栖継さん（SAT 会員）の記事の中に、米国のチェロキー人死刑囚 N.I.Sequoyah 救援運動についても言及。
＊NOVA VOJO:2002.11:N-ro379 novembro A5 X32頁中E文11頁半, EPA.表紙裏に佐藤不二雄報として「EPA北海支部を開設」の記事。
＊SFERILO:変形A4版1枚2頁。 SFERO発行、英語・エスペラント混在、12月例会予告号
＊La Movado N-ro 622 dec. 2002, B5 X 20頁の内E文は2頁。日本大会記事、いつもながら要点を的確に報道。Mikspotoに北海道立文学館のエスペラント版アイヌ神謡集の記事。楽譜はこの頃よく聞く La Horloĝo de l'Avo(おじいさんの時計」

La vjetnama pentristo Tran Quan Ngoc venis la urbon Obihiro.
Vi legos detalojn pri lia renkonto kun s-ro SAWAYA Yûiti en la venonta numero.

En Obihiro aperis paperinformilo nomata "Esperanto"

帯広に「エスペラント」誌登場！

Love & Information from OBIHIRO

エスペラント

The First Issue (Sep. 2002)

エスペラントって何ですか？

この情報誌にエスペラントと言う名前を選んだのはエスペラント語が伝えようとする事が私達の意見と合っているからです。「世界の国全てが平等であります。皆同じ人間ですからエスペラント語を通しながらお互いを理解し合い、平和な世界を作りましょう。」と言う事です。

広辞苑によると、「エスペラント」は（「希望する人」の意）ザメンホフが創案した人工の国際語。単語は国際共通性の高いものをロマンス語・ゲルマン語・スラヴ語などから採用。字母は28。その基礎単語数は1,900に止まるが、造語法もある。語順は基本的に英語と同じで、接辞を多用。1887年に公表され、1906年（明治39）日本エスペラント協会ができた。第2次大戦前や戦中には弾圧もあった。

（編集者）

前列左からクリスチアネ(ブラジル)、スパワディ(タイ)、後列左から其源(中国)、クリントン(米国)。私たちは帯広市の国際交流員です。これから、よろしくお願いします。

目次

十勝インターナショナル協会	2
タイ特集	3
言語コーナー	4
言葉の壁を越えて…	5
杯で国際理解を深めて	6
魅惑のアオザイ	7
あとがき	8

国際交流への第一歩

「他の国の家庭料理を味わってみたい。」「テレビや本では見えてこない外国に触れてみたい。」などと思ったことはありませんか？

同じ気持ちの仲間が5人揃えば、十勝管内の在住外国人が、お料理や遊びといったその国の文化を紹介してくれます。講座の内容・時間・会場は、仲間同士でワイワイ決めるもよし、講師と相談しながら決めるもよし、みなさん次第です。お料理をつくりながらその国についておしゃべりしたり、一緒にゲームをしたりと、気軽に楽しめる講座です。

まずは、お気軽にお問合せください。

対象：帯広市民5人以上

会場：市内の公共施設

時間：平日・土日問わず午前9時から午後9時までの2時間程度

費用：会場費・材料費など講座に係る費用は各グループ負担、講師に対する謝礼は帯広市が負担

申し込み・問い合わせ：森の交流館・十勝

帯広市西20条南6丁目1－2

TEL ：(0155) 34 - 0122

FAX ：(0155) 34 - 0165

講師のオウロラさん（中央）を囲んで、一緒に料理をつくる参加者たち。（フィリピン料理講座より）

帯広市国際交流課が出しはじめた地元情報紙に「エスペラント」の名が。
発案者は、市から任命された国際交流員のひとりでブラジルから来たクリスチアネさん。
エスペラントを学んだことはないが、エスペラントという考え方にいいなと思っていたそうです。フォルタレザで世界大会があったことも知ってましたよ。

Hejmpaĝo de HEL　HELのホームページへようこそ

ESPERANTO版 http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/index.htm
日本語版　http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/index-j.htm

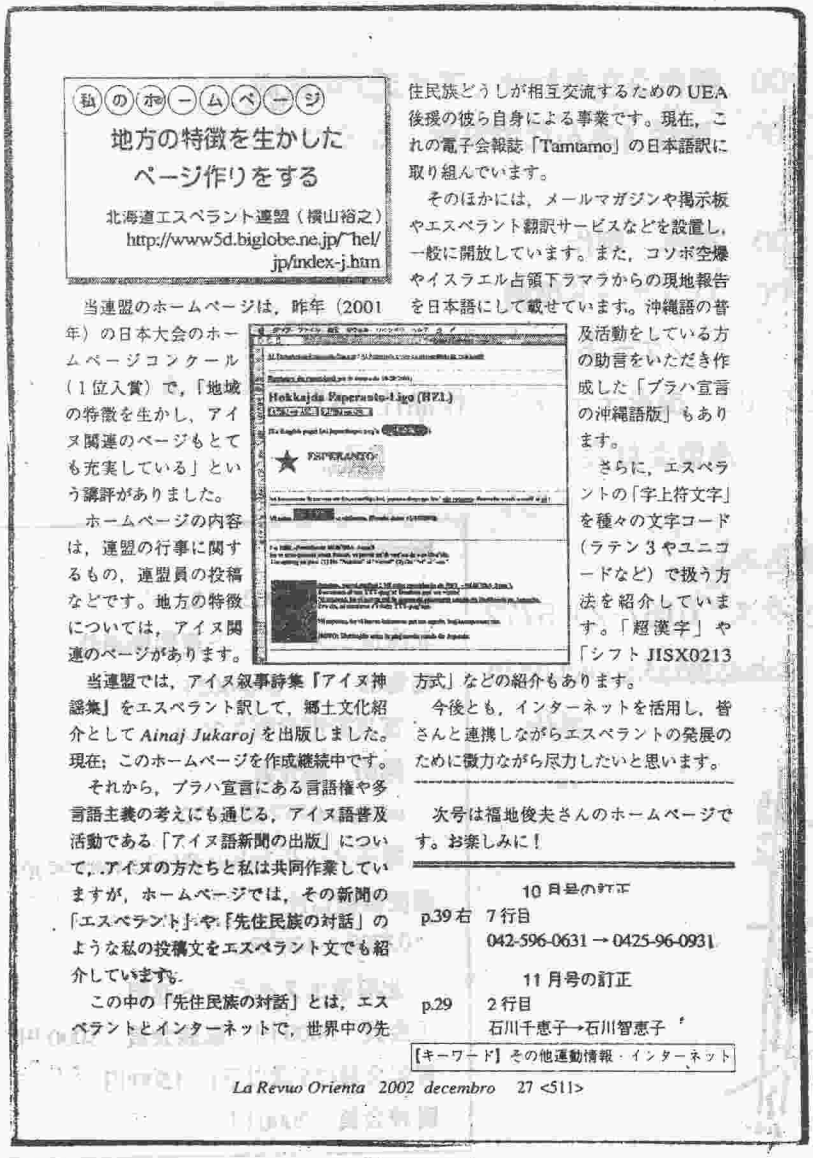
Registro de novigo 更新記録

Esperanto

43　2002.10.20　"Ĉasista Rakonto" el "Seksa anekdoto de aino" de TIRI Masiho

日本語版

８３　2002.12.７　エスペラント言語パック
８２　2002.12.７　苫小牧エスペラント会・ザメンホフ祭のお知らせ
８１　2002.12.７　2003年新春講習会のお知らせ
８０　2002.11.25　最近のブラウザによるLatin-3のホームページの閲覧方法
７９　2002.10.28　最近のWindowsでの字上符文字の扱い方
７８　2002.10.20　知里真志保「アイヌ艶笑談」の「狩人ものがたり」及び「知里真志保とエスペラント」
７７　2002.10.６　第66回道エス大会のご案内
７６　2002.9.28　私が知らせたい日本ー日本の先住民族アイヌ（La Revuo Orienta 2001 novembro p.10-11）



私のホームページ

地方の特徴を生かしたページ作りをする

北海道エスペラント連盟（横山裕之）
http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/index-j.htm

当連盟のホームページは，昨年（2001年）の日本大会のホームページコンクール（1位入賞）で，「地域の特徴を生かし，アイヌ関連のページもとても充実している」という講評がありました。

ホームページの内容は，連盟の行事に関するもの，連盟員の投稿などです。地方の特徴については，アイヌ関連のページがあります。

当連盟では，アイヌ叙事詩集『アイヌ神謡集』をエスペラント訳して，郷土文化紹介として *Ainaj Jukaroj* を出版しました。現在，このホームページを作成継続中です。

それから，プラハ宣言にある言語権や多言語主義の考えにも通じる，アイヌ語普及活動である「アイヌ語新聞の出版」について，アイヌの方たちと私は共同作業していますが，ホームページでは，その新聞の「エスペラント」や「先住民族の対話」のような私の投稿文をエスペラント文でも紹介しています。

この中の「先住民族の対話」とは，エスペラントとインターネットで，世界中の先住民族どうしが相互交流するためのUEA後援の彼ら自身による事業です。現在，これの電子会報誌「Tamtamo」の日本語訳に取り組んでいます。

そのほかには，メールマガジンや掲示板やエスペラント翻訳サービスなどを設置し，一般に開放しています。また，コソボ空爆やイスラエル占領下ラマラからの現地報告を日本語にして載せています。沖縄語の普及活動をしている方の助言をいただき作成した「プラハ宣言の沖縄語版」もあります。

さらに，エスペラントの「字上符文字」を種々の文字コード（ラテン3やユニコードなど）で扱う方法を紹介しています。「超漢字」や「シフトJISX0213方式」などの紹介もあります。

今後とも，インターネットを活用し，皆さんと連携しながらエスペラントの発展のために微力ながら尽力したいと思います。

次号は福地俊夫さんのホームページです。お楽しみに！

10月号の訂正

p.39右　7行目
042-596-0631 → 0425-96-0931

11月号の訂正

p.29　2行目
石川千恵子→石川智恵子

【キーワード】その他運動情報・インターネット

La Revuo Orienta 2002 decembro　27 <511>

日本エスペラント学会の月刊誌「エスペラント Revuo Orienta」に、HELのホームページが紹介されました。

内容をさらに充実、発展させるために、Heroldoともども、みなさんの情報、作品、記事をＨＰにおよせください。

NOVJARA KURSO 2003

新年講習会のおしらせ

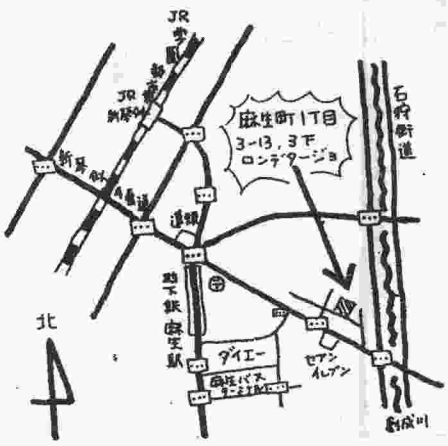
2003年1月12日（日）～13日（成人の日）

札幌市　北区　麻生1丁目3-13　ロンデタージョにて

- みんなでコマーシャルビデオやポスターを日・エス両語で作ります。
- 全国から青年エスペランチストも合流します。彼らはJEJ（日本青年エスペラント連絡会）の機関誌作りをします。

1/12（日）10：00～12：00　制作うちあわせ　アイデアの検討
12：00～14：00　昼食（みんなで自炊　なるべくエスペラントを使って）
14：00～16：00　撮影、制作
16：00～17：00　パンケード準備
17：00～　パンケード
1/13（休日）10：00～12：00　撮影チェック　作品仕上げ
13：00～　連盟委員会

参加費　1500円（飲食費込み）
問い合わせ　電話/ファックス　0167-23-5772
電子メール kabaty@fa3.so-net.ne.jp
樺山



Heroldo de HEL
第93号　(2002. 12. 9)
北海道エスペラント連盟機関誌
編集部　〒076-0024
富良野市幸町2-20-A
樺山　裕介方
tel/faks 0167-23-5772
電子メール kabaty@fa3.so-net.ne.jp
郵便振替口座
02700-6-17075
北海道エスペラント連盟
正会員　3000円　家族会員　1000円
青年会員(25歳以下)　1500円
購読会員　2000円